

# 藝園草牧

第十卷・第七号

昭和三十一年七月一日(毎月一回)日発行



夕張郡長沼町字内二〇六六  
雪印種苗株式会社  
中央研究農場

雪印種苗株式会社

# 雪印が 育成選抜品種の解説 お奨めする オーチチャードグラス(改良種)

## (一) 育成の目的

日本全土に亘って栽培されているオーチチャードグラスも在来種は早生系で赤クローバーの混播では刈取期が一致せず(赤クローバーの開花期までおくと硬化する)、また暖地では特に夏以降に葉の枯れる雲形病におかされ易く改良が望まれていたので、晩生、多葉、多収、耐病性品種を育成しようとした。

## (二) 育成経過

戦前ソ連ウクライナ地方より導入したオーチチャードの中から前記目的に合致する個体を選抜、型の濃厚化(Concentration of types)につとめ、いわゆる Group breeding によって育成した(昭和二十五年より発売開始)。

## (三) 特性概要(表参照)

(1) 晩生種(在来種に比し一〇〜一四日

## (四) 利用上の注意

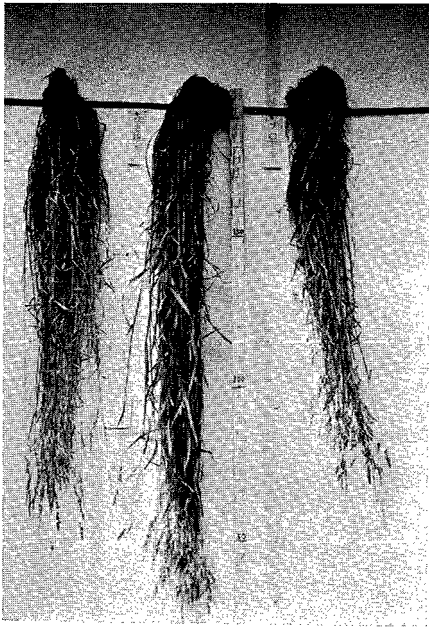
- (1) 赤クローバーと混播して刈取適期が一致し、良質草の取得に役立つ。
- (2) 雲形病の発生の多い暖地に利用して有利。
- (3) 葉が多く硬化が遅いから乾草用として適当。

晩

- (2) 草丈(在来種に比し伸長型、約二〇センチ)
- (3) 多葉(約半分は葉)
- (4) 茎数(在来種に比し分蘖は少ない)
- (5) 多収(在来種に比し約四〇%増収)
- (6) 耐病(葉の枯れる雲形病に強い)



出穂期の改良種(左)と在来種(右) 播種後2年目



写真左上から在来種、雪印改良種、フロードそれぞれ一株当りですが雪印改良種は草丈、葉量共に優れている。

オーチチャードグラス改良種特性概要表

調査項目	生育調査(二、三年目)			収量調査(一〇アール当たり)			その他		
	生	育	調	生	量	重	乾	重	
品名	草丈	平均	間数	二年目	三年目	平均	割合	乾草	割合
種名	一年	二年	三年	キロ	キロ	キロ	%	キロ	%
起生期	出穂期	成熟期	刈取期	二年目	三年目	平均	割合	乾草	割合
四月	六月中旬	七月中旬	八月中旬	1,200	1,300	1,250	130	1,000	110
四月中旬	六月上旬	七月上旬	八月上旬	1,100	1,200	1,150	120	900	100
四月上旬	五月中旬	六月中旬	七月中旬	1,000	1,100	1,050	110	800	90
在来種	四月上旬	五月中旬	六月中旬	900	1,000	950	100	700	80

備考 1 畦幅六〇センチ 一〇アール当たり約一・五キロ条播

2 追肥(春) 硫酸二〇キロ、過石二二キロ、硫酸八キロを畦間に施し中耕